

浅野 繁 浅野 純子 浅野 みけら

館ムジカ

ジョイントコンサート

それぞれのソロの世界

2015年5月6日(水・祝)

仙台市戦災復興記念館記念ホール

13:30開場 14:00開演

主催

館ムジカ

後援

(株)ヤマハミュージッククリエティング仙台店
カワイミュージックショップ仙台

河北新報社

ごあいさつ

本日はお忙しい中、館ムジカジョイントコンサートにお越し頂き誠にありがとうございます。

昨年の春、夏と行いました2つのジョイントリサイタルに続き、私ども「館ムジカ」主催のコンサートをお届け出来ます事を、大変嬉しく思います。今回は8年ぶりに帰国いたしました娘、浅野みけらのヴァイオリンをアクセントに、「個人の音楽世界」をテーマに、ソロのみで自由にプログラミングしてみました。それぞれのこだわりや個性、世界観を皆様感じて頂ければ…と思います。

皆様どうぞ、ごゆっくりお楽しみ下さい。

浅野 繁
浅野 純子



浅野繁

宮城県加美町出身。佐々木美佐子氏の指導でピアノを始め、後に庄司芳武、石橋ときわ、大西愛子の各氏に師事。1964年第8回全東北ピアノコンクール第1位、文部大臣賞受賞。1965年桐朋学園高校音楽科に入学。井口愛子氏に師事。1970年第39回日本音楽コンクールピアノ部門第2位入賞。1972年桐朋学園大学音楽学部を音楽賞を得て卒業。1976

年文化庁在外研修員としてスイスに留学し、アルトゥーロ・ベネデッティ＝ミケランジェリ氏に師事。1980年帰国。東京、仙台を中心に各地で演奏活動を再開。ソロリサイタルの他、宮城フィルハーモニー管弦楽団（現仙台フィル）等のオーケストラと協演。またヤナーチェク弦楽四重奏団ともゲストピアニストとして共演。仙台ニューフィル、鹿児島交響楽団など、アマチュアオーケストラとの協演も行う。1994年宮城教育大学管弦楽団とベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲全曲演奏会を行った。1974年ヴァイオリニスト小林武史氏との国際交流基金の要請による東南アジア演奏旅行。1982年同氏と日中国交回復10周年記念音楽使節。また、アメリカ、ポーランドなど、国外での演奏活動も行っている。

昭和62年度宮城県芸術選奨新人賞受賞。平成7年度宮城県芸術選奨受賞。宮城学院女子大学名誉教授。

浅野純子

福島県出身。1977年第21回全東北ピアノコンクール第1位、文部大臣賞受賞。1984年東京音楽大学ピアノ演奏家コースを優等賞を受賞して卒業。ポーランド給費留学生としてワルシャワ・ショパン音楽院マスターコースに留学。1986年帰国。仙台、東京にてリサイタルを行う。1990年ワルシャワにてリサイタル。1994年ポーランド・カリシフィルオーケストラと協演。1992



年、1995年、1997年、仙台でリサイタル開催。1999年ポーランド・クラクフ日本美術技術センターにてショパン没後150年記念リサイタルを開催。同年東京オペラシティでショパンリサイタルを行う。2002年、2004年、2007年、2010年仙台、東京にてリサイタルを開催。これまで八島幸男、三浦浩、斎藤久子、井口愛子、関根有子、A・ステファンスキの各氏に師事。

2008年全日本ピアノ指導者協会特別指導者賞受賞。2011年、2012年、2014年同協会指導者賞受賞。全日本ピアノ指導者協会正会員。その他様々なコンクールの審査員を務める。現在演奏活動を行うと共に後進の育成にも力を注いでいる。

宮城教育大学非常勤講師。

2012年有志団体AKTを立ち上げ、国際セラピードッグ協会に協力。チャリティーコンサートにも取り組んでいる。



浅野みづら

宮城県仙台市出身。4歳から木越直彦氏の指導のもとヴァイオリンを始める。その後河野芳春、小林武史各氏に師事。

2005年第7回バッハホール音楽コンクール高校生部門第1位、最優秀賞受賞。2006年より渡米、インディアナ大学ジェイコブス音楽学部に奨励金を得て入学。2010年学士号取得。2012年修士号取得。2013年同大学院パフォーマーディプロマ取得。

同大学ではソロヴァイオリンをキャサリーン・ウインクラー、フェデリコ・アゴスティーニ、シッピ・バーンハードソン各氏に師事。室内楽には主にパシフィカ・カルテットの指導を受ける。在学中に学校内外の多数のオーケストラで交響曲、オペラ、バレエ等多様な演奏経験を積むほか、また幼児教育においても、ミミ・ツヴァイグ、ブレンダ・ブレナー各氏の監督のもと、子供のための音楽教室や地域の小学校音楽教育に携わり、研鑽を積む。2007年、2008年、2009年にウィーンに夏期留学。ソロヴァイオリンの他、ドイツ語、室内楽を学ぶ。2012年アスペン音楽祭参加。2013年カリフォルニア州ナパバレーにて、パフォーミングアートセンターフェロー第1期生に就任。地域の音楽教育、文化発展を目的とし、音楽大使として教育、音楽活動に努める。2014年同プログラムを修了。同年7月に帰国。ヤマハ英語教室講師を勤めながら、更に自身のヴァイオリン演奏を追求している。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)

ピアノソナタ 第8番 イ短調 K.310

全部で18曲あるモーツァルトのピアノソナタのうち、短調で書かれている作品は大変珍しく、他にはピアノソナタ第14番ハ短調があるのみである。1777年、21歳のモーツァルトはザルツブルクを出て、母アンナと共にパリへ向かったが、パリで思ったような仕事が見つけられず、その上翌年7月に母を亡くしてしまう。悲劇的な曲調を持つこのピアノソナタ第8番はその頃に書かれた作品であり、母親を亡くした悲しみが反映されている。第1楽章ソナタ形式。緊張感のある悲劇的な主題で始まる。第2楽章は天国を思わせるハ長調で始まり、ノスタルジックなハ長調にそっと触れた後、嘆きのような中間部へと至り、また冒頭を再現する三部形式。最終楽章は常に切迫したプレストの性格を持ったロンド。ミュゼット風のイ長調の中間部を経て、畳み掛けるように完結する。

フリッツ・クライスラー(1875-1962)

レチタティーヴォとスケルツォ・カプリース Op.6

オーストリア出身の作曲家、そして著名なヴァイオリニストであったクライスラーが1911年に出版、ウジェーヌ・イザイに献呈。オペラの一節を思わせる重厚なレチタティーヴォと、軽快に駆け抜けるスケルツォ・カプリースの二部構成。リコシェやフラジオレットなど、ロマン派時代に流行した当時は革新的であったヴァイオリンヴィルトゥオーゾの華やかなテクニックを取り入れたサロン曲。クライスラーは当時売れっ子ヴァイオリニストで、自身がコンサートで演奏するプログラムのほとんどを自身で作曲していた。その中でピアノ伴奏なしの作品は大変珍しく、他にはシュターミッツの様式による「合唱の練習」Op.30があるのみである。

ウジェーヌ・イザイ(1858-1931)

6つの無伴奏ヴァイオリンソナタより 第4番 ホ短調 Op.27

ヨーゼフ・シゲティの弾くバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタに感銘を受けたベルギーの作曲家イザイは、6つのソナタのスケッチを一晩で書いたと言われている。イザイ自身も著名なヴァイオリニストであり、彼がそのヴァイオリン演奏の技術と知識を詰め込んだ6つのソナタは、1924年に出版される際に、親交のあった6人のヴァイオリニストにそれぞれ献呈された。第4番はフリッツ・クライスラーに献呈。全3楽章からなり、内2楽章にはバルティータを模してバロック舞曲の名を冠している。情熱的に複数の旋律を同時に展開させるポリフォニックな技法が用いられている第1楽章。ピチカートで始まる第2楽章では楽章を通しG-Fis-E-Aのオスティナートが鳴り続ける。唐突に始まる第3楽章は4分の5拍子で書かれ、中間部を挟んだ三部形式の無窮動である。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)

幻想曲 Op.77

ベートーヴェンは、その交響曲やピアノ協奏曲、弦楽四重奏などがとりわけ有名であるが、意外にも多数のピアノ独奏曲を、32のピアノソナタの他に書いている。その多くには作品番号(Op)がついておらず、WoOやHess番号が1900年代になってから学者によって付けられ、出版された。この幻想曲には作品番号が着いており、いわば完璧主義で感情的に自分の作品を破り捨てることさえあったベートーヴェンが、出版の価値有りとして自ら認めた出来映えであったと思われる。この作品が書かれた1909年には、ピアノ協奏曲第5番「皇帝」を完成させており、またナポレオンがウィーンに侵攻し、ウィーン中が混乱に陥った最中に作曲された。冒頭は悲劇的な下降音階とコラール調の優しい音楽の唐突な対比が用いられ、このような相反する性格をもつ二つの要素を展開される手法は彼の交響曲などにもよく見られる。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

ピアノソナタ 第15番 ニ長調 Op.28 「田園」

「田園」の通称で親しまれているが、交響曲「運命」やピアノソナタ「月光」と同じくこれはベートーヴェン自身がつけたものではなく、ハンブルクの出版社クラッツ社が作曲者の死後1838年に出版した際に勝手に命名してから定着してしまったものである。冒頭の穏やかな旋律が田園を思わせたのであろう。このピアノソナタを完成させた1901年はベートーヴェン初期の終わりにあたり、翌年に有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いたことから、精神的に追いつめられていた時期と思われる。第1楽章はソナタ形式、第2、第3楽章は三部形式、最終楽章はロンド形式で書かれている。強弱拍の曖昧な配置や主題の執拗な展開など、交響曲ではおなじみの彼独自の特徴的な要素をふんだんに用いており、それまでの形式に捕われることなく、独自の作曲技法を築き上げ、その後の音楽史100年に絶大な影響を与えた中期、後期の作風の片鱗を見せる作品である。

Program

プログラム

モーツァルト

ピアノソナタ 第8番 イ短調 K. 310

第1楽章 Allegro

第2楽章 Andante cantabile con espressione

第3楽章 Presto

Pf. 浅野純子

クライスラー

レチタティーヴォとスケルツォ・カプリース Op. 6

イザイ

6つの無伴奏ヴァイオリンソナタより

第4番 ホ短調 Op. 27

Allamanda

Sarabande

Finale

VI. 浅野みけら

休憩

ベートーヴェン

幻想曲 Op. 77

ベートーヴェン

ピアノソナタ 第15番 ニ長調 Op. 28 「田園」

第1楽章 Allegro

第2楽章 Andante

第3楽章 Scherzo. Allegro vivace

第4楽章 Rondo. Allegro ma non troppo

Pf. 浅野繁

「館ムジカ」とは？

ムジカ (Musica)=イタリア語で音楽

浅野繁・純子の二人がこれまで国内外で培ってきた音楽経験を活かして、教育と演奏活動を通じ、音楽の“伝承”を発信・展開して参ります。

活動内容

1. 通常のピアノレッスンに加え、両名から指導を受けられるダブルレッスン制度、複数名を対象としたイノベーティブなワークショップやグループレッスンの取り組み。

・ワークショップ(担当・浅野繁)
アナリーゼやピアノ奏法の解説、実演。バロック、古典、ロマン派、近現代等それぞれの時代作品に即したタッチ(音色)、ペダリングなどを研究、実践する。

・グループレッスン(担当・浅野繁、純子)
欧米で広く取り入れられているマスタークラス形式の合同レッスン。お互いの演奏をシェアし、高めあう。オーディエンスの前で演奏する経験を積み、客観的な音楽的思考を養う。

2. 各種コンサート活動の企画、実施。

◇2015年 コンサート予定◇

- ・ 9月22日(火・祝) 仙台市戦災復興記念館記念ホール
グルッポフィガロ～小さな音楽会～
30周年アニバーサリーコンサート
- ・ 11月8日(日) 仙台市戦災復興記念館記念ホール
第4回東日本被災犬保護プラザ活動支援
チャリティーコンサート&セラピードッグ講演会

館ムジカお問い合わせ

022-379-6259

090-7282-5211

yakatamusica@gmail.com